

# 三月例会御案内

(平成二十年)

## 財団法人 協和協会

△会長 塩川 正十郎

### ○御案内

三月二十六日(水) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五七六回)

講 題 日本の真の実力を、各分野から分析・解説する!

講 師 導入・『文芸春秋』編集部大介様、解説・渡辺一弘『日本の論点』編集長

いま、日本の真の実力が問われております。経済財政政策担当大臣の「日本はもはや経済は一流と呼べる状況ではない」との発言。わが国学生の学力が世界の十六、七位にまで落ちていく。食糧自給率が四十%を切った。技術大国と言いつながら発展途上国に追いつかれようとしている等々。世界における日本の実力は、果してどうなのか、が心配になります。

そうした折、『文芸春秋』の「日本の論点」編集部が、十数項目の分野にわたり、この問題を徹底分析しており、わが国の実態、そして、これからの日本のあるべき方向性を考える上で、大層参考になると思われますので、『文芸春秋』編集部の大介様と、実際の調査・分析を担当された『日本の論点』編集長の渡辺一弘「俵弘句館」代表取締役社長にお越しをいただき、御解説をいただくことにいたしました。重要な課題、奮っての御参加を!

(清原記)

◎ 当日の会費 四千元 (昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

### □御報告

去る二月二十六日の月例会は、「日本の新しい国のかたち」地域主権型道州制“の提唱”と題して、江口克彦P H P総合研究所代表取締役社長、内閣官房道州制ビジョン懇談会座長に、御講話をいただきました。当協会がお願いに出た趣旨は、以前は三千三百もあった地方自治体経営難から合併して半分近くとなり、東京への一極集中、地方の高齢化・過疎化が進んで、

道州制の議論が高まっているものの、政界では、選挙区がらみで導入がむずかしいところです。そうした折、P H P総合研究所社長の江口克彦先生が、敢然、推進論を展開しておられますので、御講話をいただきました。当初、むずかしい内容になるのではないかと思います。が、実際の御説明は、身近かな具体例を引いて、実に分かりやすく御説明下さいましたので、日本もそうした大きな構造改革に取り組む必要があることを痛感いたしました。その後の質疑応答・意見交換も盛んで、江口一雄元衆議院議員、能勢和子元衆議院議員、竹内雄一郎憲法学会理事、法曹歴五十一年の綿引光義弁護士等々、熱心な意見交換があり、有意義な月例会でした。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十五本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、古瀬

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

三月二十六日(水) 出 欠 (いずれかに○印) 昼食弁当を用意するためにも)